鳥栖公民

第8号

昭和34年9月15日発行

発行所 鳥栖市中央公民館
佐賀県鳥栖市（電話534番）

発行人 佐藤一郎
編集人 宮原喜見
印刷人 伊和秀松

市の常識

★收穫予想高　今年の鳥栖市の政府要請量は二〇、五九九石、努力量一、六三一石に対し八月末の光波し予約量は二一、三七〇石でかるく要請量を突破するという成績。保有量をこの倍にみても收穫高は約四万三千石だが平年作の二一三割増收という專門筋のご託宣によれば約五万石、反当平均六俵というところ。

但し、今後の〝虫と風〟で一俵に入れるまで」は油断はできない。

10月1日 第八回 國勢調査は二十四日から 準備調査は二十日

☆　☆　☆

来る十月一日は全国一せいに〝国勢調査〟が行われます。これは五年に一回行われ今年は第八回目にあたりますが、この調査で判べた人口の統計が、今後の五ヵ年間の国の政治の基本資料となる大事な調査です。

これには各部落から選ばれた市内一五二名の調査員がそれぞれの部落の受持を訪問して調査にあたりますが、九月二十四日から準備調査が始まり十月一日の午前零時現在で調査がまとめられるわけです。

各家庭でも、家族の人員や仕事の内容についてあらかじめ調べておいて、この調査が順調に終るよう御協力願きたいものです。

國勢調査 早わかり問答

▲　出稼ぎに出ている人のように相当長い間、自宅を離れている人はどうなりますか。

△　これには一定の限度があって、三ヵ月以上にわたって旅行や出稼ぎなどしている人は、その旅行先や出稼ぎに行っているところで調べます（家の行商など）。

▲　三ヵ月以上入院している患者で、退院後調査ときにまだ自宅に帰りついていない者はどうなりますか。

△　調査時に宿泊していたところで調べます。

▲　病院の附添人は……。

△　三ヵ月以上その病院にいてもふだん住んでいる所即ち自宅で調査するわけです。

▲　行旅不明者はどうなるのですか。

△　不在期間のいかんを問わず、自宅ではしらべません。その人のおったところで調べます。

▲　旅芸人などが調査時汽車に乗っているときはどこでしらべますか。

△　調査時後、最初に到着した宿泊地でしらべます。但し、その中に常住地のはつきりした人で、自宅を出てから三ヵ月にならない人は常住地でしらべます。

▲　配給は甲市に登録してありますが、実際は乙市に三ヵ月以上住んでいますがこの人はどこでしらべますか。

△　乙市で調べるわけです。

▲　お産のために田舎に帰っている妻は。

△　田舎に既に三ヵ月以上居住している人又はその期間が三ヵ月以上になる見込みのときは田舎でしらべ、そうでない場合は自宅で調べます。

▲　調査時まだ病院にいる病人はどこで調査しますか。

△　世帯の調査はされるところ一緒です。

熱心な青年学級 田代町の三部落

田代町の神辺、荒方（かみやた）古賀の三部落では去る七月二十五日より神辺公民館で青年学級を開講しているが、地元青年男女約百名が童問の疲れもめげず熱心に聞講している。

これは既に旧町時代にも行われていたが、智識欲に燃えた青年たちの要望によるもので、農村問題、時事民法、市政、文学などの一般教養をはじめ、畜産、疏菜栽培、農機具の分解修理から育児、栄養など多くの問題が設けられ合計自時間の講座を受講して十月八日終了する。

なお、冥社では今后も引続き通行して市民の利用をはかる意向である。

（写真は臨時バス運行で賑う東橋）

成績は上々 喜ばれた臨時バス

鳥栖市の市営自動車株式会社では、たまたま同屋（あづまや）祭り、秋の祭（おちょうずの祭）などに夏の観光客が多いところから臨時バスを運行して十月八日終了した。

一週間の運行で市民の利用は勿論、既に大へんな繁況さで、光地も例年になく賑わった。

なお、冥社では今后も引続き通行して市民の利用をはかる意向である。

（写真は臨時バス運行で賑う東橋）

区に対して臨時バスを運転して好成績をあげた。

これは去る八月十四日より九月十五日まで優良商店会と鳥栖専門店会の協賛と積極的な援助によって、市内のアマチュア・カメラマンによる作品約一三〇点が集まり、一部（観光）、二部（産業）、三部（人物）、四部（風景）、五部（動物）の三十二日間一般公開された。

初の観光寫眞展ひらく

鳥栖市役所では初のこころみとして観光祭りを中心に市内の観光写真コンクールを開催、去る八月六、七の両日、鳥栖郵便局で展示した。

これは、特に市内の才一位の盛会と鳥栖専門店会の協賛と積極的な援助によって、市内のアマチュア・カメラマンによる作品約一三〇点が集まり、一部（観光）、二部（産業）、三部（人物）、四部（風景）、五部（動物）に分けられ久留米の写真（東福寺）、倉田鶴平氏らの審査の結果市長の賞状はか郵便局長賞

（西町鳥栖印刷社内）

國勢調査 26秒間に一人ふえる 自殺は25分に一人

二十九年度人口動態調査から

厚生省が行った昭和二十九年の人口動態調査からその主なるものをまとめてみると次のような結果となる。

出生　一八秒に一人
死亡　四四秒に一人
結婚　四五秒に一組
離婚　七分に一組

死亡の内訳で死因別の主なるものを並べてみると

脳卒中　四分に一人
ガン　六分に一人
結核　十分に一人

となっており、特に最近の癌は増加傾向として

脳殺　二五分に一人

となっている。

人口の自然増加率は、終戦直後の二二・三年頃の半分に低下しているが、それでも年に一〇四万（佐賀県よりやや多い）が自然増加している。

× ×

郷土の知る人 ①

田代出身の東大教授 古賀逸作氏

氏は明治三十二年田代町大字田代生れ、熊本中学、才五高等学校を経て大正十二年東京帝大電気工学科卒業後、東京市技師として電気研究所に勤務の傍ら東京帝大工学部助教授を兼ねて昭和四年に東京工大の助教授となり十八年には東京帝大教授、次いで二十一年には東京工大の教授となった。

現在、東大工学部、電気工学教室担当教授として無線通信工学を専攻。昭和九―十年には欧州、印度、アフリカ、西部アジア、南北アメリカなどを歴訪、二十五年にはアメリカ、二十九年には欧州に出張された。昭和五年には三〇才で工学博士の秀才。

横濱ゴム取締役会長 基里出身の天本淑郎氏

明治二十二年生れの六六才。同四十四年佐賀師範卒業、大正六年陸軍経理学校卒業後、横浜ゴム株式会社に入り昭和二十年、同社取締役、同二十三年同社取締役専務に就任の経歴を経て

蚊とハエのいない先進地

どうやら蚊とハエのいない季節になりました。というのは、秋から多への間だけで、このままでは来年の春先ともなれば又ぞろ蚊とハエに悩まされるに決っています。本当の蚊とハエの駆除は今からです。便所の汲取り口、食べ残りや野菜くずの捨て場、溝や家の周囲、溝など、日頃から清潔にしていて習慣をつけておくことです。

昨年末までに、全郡で既に三、五〇〇にのぼる地区が「蚊とハエのいない生活」をして、健康な優秀よい生活を送っておりますが、次にあげる広島県の例は、蚊とハエがいなくなったらどれだけ私達の生活に利益をもたらすかということがよく分ります。

グンと減つた傳染病

牛乳 鶏卵 も二割近かい増産

広島県では昭和二十八年度中県下の蚊とハエの駆除合計一九三（二、一五七）を実施した地区と実施しない地区とでは、三七人に対し実施地区の二地区では一二八、六人の発生率となる。

これは、次に示す国民健康保険において裏付されている。即ち昭和二十六年から二十八年の三年間、蚊とハエの駆除を実施した十二（七九）

腸チフス	二（一七）	六県二十二町村の診療費支拂額を全国平均に比べると昭和二十八年で次の通り
パラチフス	二（二三）	実施地区　五八一、八円
日本脳炎	二（三一）	全国平均　九八八、〇円

一方、蚊や、ハエは人間はかりでなく家畜を害し引いては生産を減少していることが次の牛乳と鶏卵の調査で分るが、実施地区は実施していない地区に比べ牛乳が一、八%、鶏卵が一九、二%増産になるという。

目下、県や市、保健所などの対策が講ぜられておりますが、全市一致協力し多少の犠牲は忍んで下さいこのおそろしい風土病根絶のため、防除の徹底を期すべく本病を子々孫々に残さぬようこの機会におい申上げる次第であります。

×　×

日住虫の撲滅を望む

甚里町　重田　時　久二

去る五月初めのことです六十を超した或るお爺さんが清掃作業中突然吐血を起して倒れ約二十分位で回復しましたが、この人は昨年も同期頃に自転車に乗ると思われる。この間疲の癒力者として日夜衛生思想の普及につとめてきた佐藤常次さん（五三才）当時隣保班長は「妙な薬しみもあつたもので、検便の結果をみるのが一番楽しみで、特に最初の検便で日住の保卵者二名が出て、恐しい日住虫病の早期発見ができたことが一番嬉しかつた」といつて、おり、本職の商業は家族にまかせきりの働の入れ方である。蚊はあまりいないというが、殆んどが畜舎をもつ農家の部落だけに、今後ハエの撲滅をどう手がかが谷部落の大きな課題として話題にのぼつている。（写真は清水三郎氏）

市民の聲

掃除區域を奪い合い

〝検便〟の結果が楽しみ

④（神辺・谷）

杓子が鍋のハイキングつて聞の音が賑やかに響いた。掃除の分担を決めるときなどは、子供達のは「環境衛生モデル指定」の自慢がある。

話は一寸古いが、これは以前から続けられた子供達の〝早起会〟に端を発し、たまたま島栖の食生活改善のモデル指定を受けたことから昭和二十六年一月、その発会式で三十六戸二百十五名の全新住民がこぞつて部落内の環境衛生の改善に乗り出した。小学生は道路掃除、婦人会では又それぞれ部落の推進力として毎週日曜の朝夕二回は決まつて部落のハイキングをコースとして始められた。

この全部落をあげての努力は昭和二十八年五月の年団

山の心

鼻木一二三

かつては登山が遊戯の意に解されて時期があった。ようだ。スキーを習い覚え朝霧夜を通して登っている。登山者が激増し、足袋がよくなったこと、世の風潮と考え合わせれば必らずしも、そうだとはいえきれないだろうなと考えてむことがあるが、物淋しい気持をみせ伸びていきつゝある。自分の経験からいえば、質的な変化や登山用具の発達、交通の便等は、戦前以上になったと思う。私は、今も一自分の山」というものを持っていて「何を苦労して登るの」という人もいるが、足繁く通う山である。手近なところで基山などそうだ。二十代のころ、敦賀回春夏秋冬、

★そういう事も確かにいえるだろう。今どうなったことだが、戦前のそれと比較すると、登山者が激増し、足袋がよくなったこと、世の風潮と考え合わせれば必らずしも、そうだとはいえきれないだろうなと考えてむことがあるが、決してそうばかりではなさそうだ。むしろ本能的な変化や登山に近いものがあるのではなかろうか。本能の充足という変った輪をもつに至った。山の嫌いな人は、きまって「何を苦労して登るの忍び寄る秋かや軒の小風鈴朝顔のしぼまずありて雲の虫漫歩に隠の差入り秋を呼ぶ干照続く蛙木のはこり水盛へり忌に列す敵人の愛でしゼラニュームゼラニューム紅き炎の丘の上朝こわきシャツ傳ふ秋の冷

（カット写真は秋深まる九重飯田高原）

題二想随

元瓜生野　皆賈田松子

不毛地と荒地

馬渡英吉

以前から佐賀県は文化の不毛地とか荒地かという作業である。一つの事業の不毛地とは、何が本質的であるか。国県の地質か、すなわち文化的地質か他県の高度性をもつものからみれば、その文化的地質が他県のようなアメをなりうけても仕方はないけれど、あまり有難くないことだ。数年前、ある或新聞の論説に、わが佐賀の耕地は文化の不毛地であってはならない。と一つの文化部落の構想めいたものを発表したことがあった。その一分野たる文学欄のなかで考へて、不毛地とは、すこし過言であったかもしれないが。郷土作家の田中草太郎君などは、文化の荒地である。と書いた。新聞にも書いているのを見て、なるほど荒地はいなかった。と思った。不毛地であれば草木も生えず、作物の種子をおろして発育することはむずかしいけれど、荒地ならいいのであり。地質がいいのであり。県内の文人達の後で考へて、不毛地とは、の一分野たる文学欄のなかで会えば陳情に名を借りた愚痴は聞かされるが、こうすべきだという意見のないのは淋しい。

そこで対策だが。私は大体二つあると思う。

一つは筑後川の河川改修の問題である。これは、当時においてさえ佐賀の農家を大分的にやるとは、だ。然しこれは有明海の海面低下を期待することであり、農家は、これを期待することは、経済が日本一の富裕を誇っていたとはいえ、いぜ聞いたことはなかった。

そこで、なぜ生産は高くなければならぬ程理事者として処置に悩まされたのだが、こうすればむしろ附近の都市の分まで引き受けてもよいということになるわけだが。

以前から佐賀県は文化的荒地の開墾は、大いなる作業である。一つの事業であって、この県の地質か、すなわち文化的地質が他県の高度性をもつものからみれば、その文化的地質が他県の高度性をもつものからみれば、その文化的地質が他県の高度性をもつものからみれば、その

〝基本選擧人名簿〟〝調製にご協力を〟

基本選擧人名簿は毎年九月十五日現在によって調製されます。この名簿に掲載されている選擧權の有無は、直接選擧權に影響を及ぼすもの。選擧權の有無は、直接選擧權に影響を及ぼすもの。選擧權の有無は、直接選擧權に影響を及ぼすもの。